

ふくいわじいんこうかくりにつく

ふくいわ耳鼻咽喉科クリニック



福岩 達哉 院長
Tatsuya Fukuiwa

Profile

加世田市(現・南さつま市)で出生。県立鶴丸高校卒業。鹿児島大学医学部卒業後、平成7年、鹿児島大学医学部耳鼻咽喉科学教室へ入局。平成12年(財)癌研究会附属病院頭頸科研修。平成16年 米国アラバマ大学パーミングハム校(UAB)免疫ワクチンセンター留学。平成19年 鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 講師。平成20年 ふくいわ耳鼻咽喉科クリニック開院。平成22年 医療法人エターナル設立。

- 医学博士
- 日本耳鼻咽喉科学会認定専門医
- 日本気管食道学会認定専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本アレルギー学会認定専門医
- 日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医



ふくいわ耳鼻咽喉科クリニック DATA

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	○	○
14:00~18:00	○	○	○	○	○	○	○	○

☆土曜午後は17:00まで受付

TEL0993-53-3387
 ■住 所 南さつま市加世田本町22-5
 ■HP URL http://www.fukuwa-clinic.com
 ■駐車場 あり
 ■アクセス 指宿スカイライン谷山ICから車で30分 枕崎市街から車で25分 鹿児島交通線加世田ステーションから徒歩2分

ふくいわ耳鼻咽喉科クリニック

鹿児島大学附属病院の耳鼻咽喉科において、頭頸部外科や気管食道外科の治療(舌がん・咽喉頭がん・唾液腺がん・甲状腺がん)を専門としてきた福岩院長。そのなかで痛感したのが、『早期発見・早期治療』の重要性だった。一人でも多くの患者さんを救いたいとの思いから、平成20年、地元・加世田にて同クリニックを開業した。患者さんは0歳から100歳まで幅広く、プライバシーの配慮、充実の設備、スタッフとの連携、患者さんの不安を和らげる空間づくりとホスピタリティなど、患者さんを第一に考えた医療行為が行える環境が整っている。電子カルテや内視鏡画像を使った丁寧な説明や患者さんを想う院長の姿勢に、遠方から通う人もいれるほど。オンラインでの予約システムを導入し、よりスムーズな受付が可能になった。



レンガがアクセントになったモダンでナチュラルな雰囲気の外観



A 急性中耳炎(左鼓膜)



B OtoLAMにてレーザー照射中(赤い丸印)



C レーザー鼓膜切開後(左鼓膜に穿孔)



D 治療して正常化した鼓膜



キッズコーナーにはぬいぐるみや絵本などを用意



レーザー鼓膜切開装置「OtoLAM」。導入している医院はまだ少ない。

く鼓膜に穴が開いている方が治療効果が高いです。通常は専用のメスで切開しますが、この場合は平均3日で切開口が自然閉鎖してしまいます。この問題を克服するために、近年、レーザー鼓膜切開装置(OtoLAM)がルミナス社によって開発されました。穴

のサイズは0.8ミリから2.0ミリまで、0.2ミリ刻みで設定可能で、ピエゾモーター下に切開操作を行うことができます。OtoLAMで切開した穿孔(せんこう)は、メスで切開した場合よりも長期に開存し続けます(約1~2週間)。中耳の炎症が治まるまで十分に穿孔が持続するため、中耳炎をより確実に治癒させることができます。

このページのテーマ

こどもの鼻水と中耳炎

鹿児島のドクターに聞く 私たちのところとからだ

メンタル&フィジカル トリートメント

Q こどもが中耳炎を繰り返すのですが、何か原因がありますか?中耳炎は癖になりやすいのですか? (34歳・女性)

A 急性中耳炎は、鼻咽腔(ひいんくう)と呼ばれる鼻とノドのつなぎ目に付着した細菌が、中耳と鼻咽腔をつなぐ管(耳管)を伝って感染することで発症します。小児では耳管が成人と比較して短いため、鼻咽腔で繁殖した細菌が簡単に耳管を通じて中耳へ感染してしまうのです。いわゆる「青漢(あおばな)」が続くときは、細菌感染による鼻副鼻腔炎が考えられますが、その原因として代表的なものは肺炎球菌、インフルエンザ菌(インフルエンザウイルスとは別物)、カタル球菌の3種です。これらの細菌は耳管を通じて中耳で繁殖しやすく、小児急性中耳炎の原因菌としても重要です。近年、これら3大起炎菌の中で、遺伝子が変異して抗菌薬が効きにくい薬剤耐性菌が増加していて、これが急性中耳炎を繰り返したり、抗菌薬を使っても治りにくい原因の一つとなっているのです。

小児は細菌感染に対する抵抗力(免疫能)が年齢とともに変化しますが、これが急性中耳炎を繰り返す原因となります。細菌を攻撃する免疫グロブリンは、通常母親の胎盤から移行するの

中耳炎に悩む子どもを持つ親は少なくありません。しかも何度も繰り返してしまいうことに悩んでいる人も多くいます。そんな中耳炎の原因を知り、未然に予防すること、罹患(りかん)してしまったときの有効な治療法について福岩達哉院長に教えていただきました。

で、生後6か月の間は高値を示しますが、6か月以降は急速に低下し、2歳ごろまで上昇を認めません。したがって、6か月から2歳までの間は細菌感染に対する免疫能が低く、急性中耳炎を反復しやすいということがあります。

Q 急性中耳炎を反復しやすい原因は? (41歳・女性)

A (A) 低年齢での初回感染 生後6か月から12か月で急性中耳炎に罹患すると、その後に急性中耳炎を繰り返しやすいことが報告されています。

(B) 母乳栄養 母乳栄養は、乳幼児の急性中耳炎に



診察室は全て個室化されていてプライベートに配慮。耳の診察は中耳内視鏡で行い、鼓膜の画像をモニターに表示して診断する新しいスタイル。病変部を供覧しながら治療法を分かりやすく説明してくれるから安心。

罹患する頻度を下げる効果があります。生後6~12か月における急性中耳炎の発症率は、人工栄養児と比較して母乳栄養児では格段に低くなります。さらに母乳栄養の期間が4か月以下の乳児と比較して、6か月以上の乳児では中耳炎の反復率が低いことが報告されています。これは母乳に含まれる免疫グロブリン(分泌型IgA)が細菌感染に対して防御的に働いているためであり、これらの現象は「粘膜免疫」といわれる新しい概念の研究によって明らかにされました。

(C) 薬剤耐性菌 薬剤耐性菌の増加により、抗菌薬治療に抵抗する急性中耳炎が増加しています。これら耐性菌の除菌が不完全だと急性中耳炎が反復します。完全な除菌を目指すためには、鼻咽腔から粘液を採取して原因となる菌を調べて、さら

らこれらの抗菌薬が有効であるか検査を行うことが重要です(薬剤感受性検査)。(D) 集団保育 細菌感染への免疫力が低い2歳以下で、集団保育の環境にあると、鼻汁の飛沫などで細菌感染が伝播(でんぱ)して急性中耳炎にかかりやすくなります。特に、薬剤耐性菌が伝播すること

で、中耳炎の反復を助長することとなります。これを予防するために、こまめな手洗いとうがいを行った方がよいでしょう。

Q 急性中耳炎の治療で鼓膜を切っても大丈夫なんでしょうか? (38歳・女性)

A 急性中耳炎の治療では、「小児急性中耳炎ガイドライン(2009年)」に従って、重症度分類を行い適切な治療を選択する必要があります。たとえば、重症度分類が「軽症」では、抗菌薬を使わず3日間は経過観察しますが、改善がなければペニシリン(アモキシシリン)を5日間投与します。その一方、「中等度」で鼓膜所見が高度な場合、あるいは「重症」例では、鼓膜切開を行うことが勧められています。

鼓膜切開の目的は中耳に貯留した膿汁を排泄して、新鮮な空気を取り入れること、一度切開したらできるだけ長

(E) 家庭内喫煙 家庭内に2名以上喫煙者がいると、その子どもが中耳炎疾患にかかる危険率が約2倍になるという調査結果が出ています。その理由としては、耳管や中耳の粘膜や繊毛細胞が障害を受けて、粘液の性状が変化して細菌が侵入しやすくなる、化学的刺激によって耳管が閉まる、さらに免疫能が低下して細菌やウイルスが感染しやすくなる、等が挙げられます。